
マリオネットの復讐劇

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マリオネットの復讐劇

【Nコード】

N5133L

【作者名】

零夜

【あらすじ】

操られ、殺された一人と一匹が復讐を誓う。

(前書き)

とりあえず新しい小説のネタを思いついたので、短編でどんな感じになるかを試してみた。

あるところに一匹の竜がいた。

岩場に巨大な体を横たえ、天から降り続ける雨に体をさらし続けている。

体のいたるところが傷つき、血にまみれ、闇夜のような漆黒の体が呼吸とともに上下する。今にも息絶えそうであった。

だが、鮮やかな紫の瞳だけは凄まじい怒りに燃えていた。

体は傷つき、呼吸はわずか、体を叩く雨粒が滑って行く感覚もないくらいに冷え切きり、ほとんど瀕死の状態。

そんな状態にもかかわらず、紫色の瞳は怒りに燃えている。自らの残りの生気をすべて使っても燃やし続けているような状態だった。

3

『許さない……、許さない……、許さぬぞ』

竜の口から男のような低い声が漏れる。その声には激しい怒りと強い恨みが混じっている。

『我を殺すために人間を操りし者め』

天を睨むように、怒りに満ちた紫眼をゆつくりと動かす。

『我は本来は殺されないはずのもの。なのに我の命は尽きようとしている。それは昔から見えていた糸のせいか。その糸が我を縛った』

せいか』

本来ならば、避けることのできる人間の武器が避けられなかった。本来ならば、防げる人間の魔術を防げなかった。

抵抗しようとするればするほど、己の体の自由はなくなっていくた。体に張り巡らされた糸の性によって、抵抗できるぬように縛られ続けた。

『人間は操られている、動物も操られている。生きとし生けるものはすべてあの糸によって操られている。……許さない、糸を使い世界を操りし者よ!』

同時刻に、雨に全身を打たれている青年がいた。体を地面に横たえ、銀色の長い髪を下敷きにし口の端から血を流し、胸をすべてが黒い剣に貫かれそこから血を流しながら。

それでも、彼の紺碧の瞳は憎しみの炎をたたえ続けていた。

「許さない……、許さない」

憎しみが混じる低い声で青年は天を呪うように、言葉を吐き出す。

咳とともに吐き出される血によってしゃがれた声になりながらも、憎しみの言葉を吐き出し続ける。

「なぜ、俺が殺されなければならぬ。正気を失いし仲間を助け出すとしただけなのに」

本来ならば、避けることのできる斬撃が避けられなかった。本来ならば、防げる魔術を防げなかった。

彼は王国一の剣術と魔術の腕を持っていた。

正気を失いし攻撃など、本来は彼の体を掠るはずがなかった。

それなのに、

「あの系のせいだ。幼少のころより見え続けたあの生きとし生けるものを操りし系のせいだ」

動けば動くほど体中に張り巡らされた系によって動きを縛られた。そして、己が使いし黒き剣により、胸を貫かれもうすぐ命の炎がつきかけようとしている。

青年の瞳には憎しみの炎が燃え続ける。

「許さない……、系を使い世界を操りし者よ！」

竜と、青年は同時に同じ言葉叫んだ。

「『復讐してやる！ やつらに、世界を操りし者に！ かならず見つけ出し、奴らに断罪を！』」

叫ぶと同時に二人の命は同時に尽きた。

二人はおかしな空間にいた。すべてが黒に包まれた世界に。

青年は自分の胸をつ抜き続けている剣を引き抜く、竜は己の片目

を貫いた刀を引き抜いた。

「おまえは」

『貴様は』

引き抜くと同時に自分たちの体が、ぼんやりと光り始めお互いの姿が視認できるようになる。

彼らの瞳には、お互いの体からちぎれた糸が絡みついているのが見えた。

二人はお互いの姿を見ただけで、直感した。

「お前もか、漆黒の竜よ」

『貴様もか、銀色の人間よ』

二人はおかしそうに笑いあう。その笑いは哄笑となり、黒の世界に響き続ける。

「『復讐を！』」

二人は同時に言い放った。

「ともにいかないか？紫眼の竜よ」

『いいだろう、紺碧の瞳をもつ人間よ』

「『奴らに復讐を！』」

彼らが死んでから、二十年後

世界に銀色の髪を持ち紺碧の瞳を冷たく輝かせた青年が、漆黒の
体躯とガラス玉のような紫眼を持ちし竜とともに、現れた。

彼らの口癖は、

「『操りし者に、復讐を』」

だった。

強大な力を持ちし青年と、世界を揺るがすことのできる竜が世界
を相手に復讐を始めたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5133/>

マリオネットの復讐劇

2010年10月28日03時01分発行